



死と命のメタファ

キリスト教贖罪論とその批判への聖書学的応答

浅野淳博 [著]

◆ A5判・360頁・定価2970円

3月25日発売

「キリストは人間に代わって罪を負い、いけにえとして死んだ」という代理贖罪的な表現はどこまで適切か。少数者に犠牲を強いる「犠牲のシステム」をキリスト教神学が内包しているとする哲学者・高橋哲哉氏の議論を批判的に捉えつつ、聖書および関連古代文献を広く検証して、聖書が伝えようとしているキリストの死に至る生き様の真の意味を探り、その意味をいかに語るかを方向づけた力作。

関連

青野太潮著 「十字架の神学」の展開 〈オンデマンド・ブック〉

定価4400円

ビルリー・グラムと「神の下の国家」アメリカ

福音伝道者の政治性

3月8日発売

◆ 四六判・216頁・定価2750円

相川裕亮 [著] (あいかわ・ゆうすけ氏は広島大学法学部助教)

アイゼンハワーからオバマに至る歴代大統領と親密な関係を通じて、「アメリカの牧師」として彼らの政策に有形無形の影響を及ぼし、牧師としてただ一人国葬されたグラムの、主に冷戦下70年代までの思想と行動を「福音伝道者」という観点から解明した俊英の力作。〈預言者〉でも〈祭司〉でもないこの独特な宗教者の類型から何が見えってくるか。アメリカ宗教史／政治史への新たな視角。



関連

ジミー・カーター著／瀬戸毅義訳 信じること働くこと ジミー・カーター自伝

定価2640円

ヤバい神

3月25日発売

不都合な記事による旧約聖書入門

トーマス・レーマー「著」／白田浩一「訳」

◆四六判・256頁・定価2420円

旧約聖書には、神が残酷で好戦的で家父長的だという印象を与える記述が少なくない。そのようなテキストをどう解釈すべきか。多くの人が躓きを覚える「不都合な記事」を取り上げ、そうした表現の意味と理由を丁寧に考察し、神の真の姿に迫った異色の旧約入門。

【目次より】

- 日本語版への序文
- 序論 人間に挑みかかる旧約聖書の神
- 第一章 神は男性か
- 第二章 神は残忍か
- 第三章 神は好戦的な暴君か
- 第四章 独善的な神の前に人間は罪人に過ぎないのか
- 第五章 神は暴力と復讐の神なのか
- 第六章 神は理解可能か

著者は1955年マンハイム生まれ。ジュネーヴ大学、ローザンヌ大学を経て、2008年よりコレージュ・ド・フランス教授。現在は学長も務める。



脱原発の必然性と

エネルギー転換の可能性

地震国日本の現実とドイツの先例から考える

竹本修三・木村護郎クリストフ「著」

日本クリスチャン・アカデミー「編」

3月1日発売

◆四六判・186頁・定価1650円

地震大国日本の現実を熟知する地球物理学者竹本修三氏と、ドイツのエネルギー事情を研究する木村護郎クリストフ氏。両者の興味尽きないシンポジウム。



【目次より】

- 疑問1 ドイツは福島原発事故後に脱原発に政策転換した？
- ／疑問2 ドイツはフランスの原発の電力に頼れるから脱原発できる？
- ／疑問3 再生可能エネルギーを増やすと電気料金がどんどん高くなる？
- ／疑問4 再生可能エネルギーは不安定だから増やすと電力供給が危ない？
- ／疑問5 ドイツは脱原発したからCO2の排出が増えている？
- ／疑問6 脱原発は「ジャーマン・アングスト」の産物？
- ／疑問7 ドイツの脱原発には倫理委員会などに宗教者が参加しているけど、宗教家にエネルギー政策を決めさせていいの？

内田樹著

レヴィナスの時間論

戦後のレヴィナス思想の出発点を告げる『時間と他者』。難解をもつて鳴る同書を徹底的に精読、註解することを通して、深い苦しみの時間を生き抜いたユダヤ人の希望の時間論が浮かび上がってくる。思想との真の格闘の醍醐味を味わわせてくれる書。

四六判・予価2500円

柴崎聰著

詩人は聖書をどのように表現したか

多くの詩人が聖書に惹かれ、その世界を表現してきた。本書は、島崎藤村、三木露風、山村暮鳥、八木重吉、石原吉郎、安西均、島朝夫、高野喜久雄、片瀬博子、塔和子、澤村光博、高橋喜久晴、野村英夫、島崎光正、阪田寛夫、森田進らの聖書との取り組みを辿り直す。

四六判・予価2700円

雨宮栄一著

反ナチ抵抗運動とモルトケ伯

「クライザウ・サークル」と呼ばれる反ナチ・グループの中心人物としてゲシュタポに逮捕され刑死した法律家モルトケ伯の評伝。著名な元帥の甥の孫であり、広大な領地を所有するユンカーだった伯が、反ナチの思想と行動に至るプロセスを丹念に追う。著者の遺作。

四六判・予価2700円

戸田聡著

古代末期・東方キリスト教論集

キリスト教修道制の成立をめぐる諸研究や、『エジプト人マカリオス伝』や最初のシリア語キリスト教著作作家バルダイサンに関する研究と原典翻訳など、他に著者が企図するヴェーバー『宗教社会学論集』全訳をめぐる論考を含む27編を取録。

A5判・予価5500円

● 2月に出た本と雑誌

アーバンソウルズ

黒人青年、宗教、ヒップホップ・カルチャー
オサジエフォ・ウフル・セイクウ著／山下壮起訳

差別、貧困、警察暴力に包囲された黒人青年たちの窮境から発現したヒップホップ。その靈性を証言し、新たな解放神学を告げる。◆B6変型判・定価2640円

中世キリスト教の七つの時

片山寛著

神学と哲学、大学と修道院、疫病と社会。これらとの関係の中から神についての真理を探究し、膨大な思索を紡ぎ出してきた中世キリスト教。教理と社会の相互関係史を探究した14編。◆A5判・定価2750円

人間存在に内在する宗教性について

三浦永光著

人間の本質的な宗教性を明らかにすると共に、内村鑑三の感化を受けた三人の先達、留岡幸助、井口喜源次、黒崎幸吉の生涯をたどる。◆四六判・定価1650円

福音と世界

◆定価6600円

3月号 部落解放——歴史と可能性

寄稿者：友常勉、黒川みどり、藤野豊、前川修、川崎那恵、守中高明／好評連載 山口陽一、山崎ランサム和彦、宇井志緒利、田崎英明、村澤真保呂、栗田隆子、金迅野、土井健司

●この号が出るころ、わたしは育児休業に入っていることでしょう。子どもと生活する周囲の人から聞くには、とにかく生活リズムが変わり、とくに最初はほぼ眠れない日々が続くそう。どんな暮らしになるのか想像もつきませんが、思うに、そんなときにこそ映画が必要なのではないか。それも、「こういう絵が撮りたいんだ!!」という熱意だけで作られた、頭を空っぽにして観られる、ただただ勢いのある映画が。育休中、この欄ではそんな映画について書いていこうと思います。が、まず一作目はわたしの最も好きな映画『コンスタンティン』(二〇〇五)。「マトリック」シリーズ以降イマイチ作品に恵まれなかったキアヌ・リーブスが、ヘビースモーカーの不良エクソシスト、ジョン・コンスタンティンとなって悪魔や天使と激闘を繰り返す。「マトリック」とは対照的な世界観とそちらに負けないクールな映像で話題を呼んだアメコミ原作のホラー・アクションです。神をも恐れぬ不遜な態度で、十字架型のショットガン(銃撃だけでなく打撃にも使えて、超カッコいい……)を片手に夜の街を疾走するジョンに、高校生のように初めて観て以来ずっと憧れてきました。自己犠牲というキリスト教の重要な発想をコアに置くストーリーも良いのですが、

それはここでは置いておきましょう。「俺はコンスタンティン。ジョン・コンスタンティンだ」という決め台詞が素晴らしい、それだけでいいのです。(堀)

●二月に刊行する予定だった『ゼリー・グラハム……』が作業の遅れで三月となりました(再掲します)。同書はウェーバーによる「祭司」と「預言者」に加えて「福音伝道者」という理念型を立ててアメリカにおける政教関係を分析した意欲作です。その制作の追い込み中に去来したのは、ブーチン政権下のロシアの政教関係はどうなっているのかという疑問でした。小社は東方正教会の信仰と歴史に関する本を何冊か出していますが、主として奉神礼の神学であり(それはもちろん西方教会にとって重要なチャレンジですが)、今日正教会が国家とどう向き合おうとしているか、どう向き合うべきかを神学的に論じた本はありません。今次のロシア軍のウクライナ侵攻に対して多くの教派・教団が憂慮と批判の声を上げています。ではロシア国内、とりわけモスクワ総主教庁系の正教会はどう考えているのでしょうか。王冠を寿ぐ祭司であり続けるのか、預言者的な言葉を発しうるのか。普遍的な人類愛を説く一方でスラブ排外主義に固執したというドストエフスキーのことも想起されます。(小林)

福音と世界

2022年
4

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8760円

特集・警察は必要か

なぜ警察は廃絶されねばならないのか?

——アメリカにおける内戦 —— 高祖岩三郎

誰にとつての秩序が問題なのか —— 警察の暴力

をめぐるマル・ベントウーシとティエ・フア

ツァンの考察を手がかりに —— 平田周

警察の「治安」構想と「民衆の警察化」

—— 大日方純夫

日本のキリスト教と警察 —— 小島伸之

福祉の警察化 —— 堅田香緒里

生活を下支えする自治 —— 京都大学吉田寮

「話し合いの原則」の実践 —— 吉田寮広報室

《本誌七〇周年記念》

創刊七〇年に寄せて …… 絹川久子、関田寛雄

『福音と世界』における

ジェンダー、セクシュアリティ表象 …… 工藤万里江

【好評連載】

◆「日本のキリスト教」を読む 3 …… 山口陽一

◆新約釈義 ルカ福音書 4 …… 山崎ランサム和彦

◆アジアの草の根平和の証し人 8 …… 宇井志緒利

◆間隙を思考する 非同時代性のために 13 …… 田崎英明

◆古代イスラエル文学史序説 14 …… 勝村弘也

◆霊性のエゴジューあるいはニライシリア 15 村澤眞保呂

◆福音のフラグメント 15 …… 有住航